

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475201042		
法人名	有限会社ウエル創建		
事業所名	認知症高齢者グループホームふれあいの家白鳥	ユニット名	東棟
所在地	仙台市宮城野区白鳥1丁目34-12		
自己評価作成日	平成 28年 1月18日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成28年3月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>震災の被害地域という事もあり、地域と密着したいと思っています。グループホームの利用者様が重度化してきていることもあり、職員の手薄な時間帯にはどうしても地域の力が必要になってきています。ここに高齢者のグループホームがあると言う事を知っていただきたいと思い、地域の草取り、地域の防災訓練、地域の認知症勉強会への参加を行っています。芋煮会では、地域へチラシを配り芋煮会への参加の声掛けをしました。助けたり、助け合う関係を築いていきたいと思っています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>七北田川沿い白鳥団地の中にあり、1階に5部屋、2階に4部屋の東西2ユニットが並んでいる。東日本大震災での津波は、床下浸水にとどまって大事には至らなかったが、その時の経験から火災による地域住民参加による避難訓練の他、地震を想定した訓練も継続的に実施している。地域の清掃活動にリーダー自らが参加する等、地域にホームをもっと知ってもらいたいと前向きに取り組んでいる。地域住民の避難訓練への参加や古布の提供等、地域との関係は良好である。入居者がホームの中だけで過ごさずに、外出の機会を作ることが大切と考えて、ドライブに出掛け気分転換を図っている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 ふれあいの家白鳥)「ユニット名 東棟 」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念の二番目の自然と触れ合いながらという点が、人手不足もあり不足していたと思う。	開設時の基本理念を事務所に掲げている。ユニット会議で事業所が目指すサービスのあり方を話し合い、理念の振り返りを行うことを計画しているが、実践されていない。	理念は事業所が目指すサービスのあり方を示し、入居者・家族、地域のニーズに応じて見直すことが大切である。全職員で話し合い、理念の振り返りを行うことを期待したい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事の夏祭りに参加したり、市民センターの行事に参加している。	コミセン祭りに入居者が制作した花や木が飛び出すポップアップカードを出店した。地域の勉強会や町内会世代間交流への職員参加や早朝の草取りにリーダー等が参加する等、地域との交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	白鳥地区認知症サポート街づくり自主活動グループしらとりの会の勉強会に参加し学ばせていただいている。グループホームでの認知症の対応の仕方について話す機会を頂くこともある。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度にラルシテイ町内会の世代間交流会に呼んでいただいた際に食べた、炭火焼秋刀魚が、とても美味しく一部の利用者様だけでの参加のため苑で勉強に行かせていただき、芋煮会で炭火焼秋刀魚を全利用者様に提供することができた。	地域包括支援センター職員、隣接する3町内会の会長、民生委員等が参加し、2カ月毎に開催している。ホームでの行事やオレンジカフェの開催等の話し合いが行われ、運営や地域貢献に活かされている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	仙台市の研修会に参加するようになっているが、人手不足のため回数が少なかった。	保護課職員と入居者の状況や生活で困っていること等を定期的に伝えている。職員不足の状況が続き、介護度が高くなった入居者の財産管理サポートを「まもり〜ぶ」に依頼すること等を相談している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	H27年8月に勉強会を開いている。	高齢者虐待防止のため、ユニット会議でミニ勉強会を実施している。勉強会は、練習問題に回答する形式で行われ、身体拘束にあたる行為や弊害などを学んでいる。「今まで、しないでと言っていたことが、身体拘束になるんだね」等の職員同士の話し合いがあった。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	H27年8月に勉強会を開いている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	H28年3月に行う予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に丁寧に説明しており、ご理解頂けたか確認しながら行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時や電話にて意見を聞かせて頂いている。また計画作成者、リーダーが、利用者様とご家族様から意見や要望を聞かせていただいている。	本人の希望で外出するときは、家族に了解を得て支援している。家族等の意見は、面会時に積極的に聞くように心掛けている。昨年は、仙台うみの杜水族館に行きたいという入居者の希望があり、全員で出掛けた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間から出た意見を、リーダー会議や、定期訪問時に会長、社長に報告行っている。	ユニット会議で職員の意見を聞く。人手不足で座位が保ちにくい入居者の入浴介助が大変という意見があり、入浴補助用の布担架を購入した。法人は、人手不足を補うため、職員募集にも努力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務年数や資格に応じて給与水準を上げている。夜勤回数が多くなる場合も手当を上げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	交代勤務のため、全員での勉強会が難しい。系列の施設3施設で、勉強会2回開催して参加率を高めた。毎月ミニ勉強会を開催したり、外部の勉強会に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会や仙台市の研修に参加し、他の施設と交流が持てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査時はもちろん、入居時ご本人の希望や不安を聞いて安心できる関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご自宅で困っていた事、入居に際して不安や要望をお聞きするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援を提案、相談を行い、信頼関係を築くようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の体調に合わせて、炊事、洗濯、掃除、買い物等の生活面での仕事を一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が来所した時や電話をかけた時に報告、相談をし、情報共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅といった時変わらず、老人会に参加したり、電話を掛けたりと、途切れないようにしている。	近隣に馴染みの人や場がない。震災避難後に入居した方が多い。仙台市街地に住んだことのある入居者と光のページェントに出掛けたり、家族のない方の墓参りで葛岡公園まで同行する等、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合わずトラブルになりそうな方は、席替えも行って対応している。食事時の発語や食後、おやつ後の発語に不満が出ているが、利用者様の口をふさぐ訳にもいかず難している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院で退去した方のご家族様からの相談、面談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の会話の中や、職員、他入居者様との対応、テレビを見ての反応などでもご本人様の思いを推察し、把握するように努めている。ご家族様からも情報を得るようにしている。	何気ない会話から、入居者の希望や意向を把握している。入居者から「話だけで終わりにしないで」と言われたこともあるが、近隣のコンビニや秋保のおはぎを買いに出掛ける等、意向に沿った支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴をお聞きしているが、入居後でも会話の中やご家族様からの情報を得られる時がある。記録に残して情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の介護記録でその方の毎日の状況を記録し、把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	聞き取りは、主に計画作成者が行っている。居室職員間では、会議で話し合い、意見を出し合っている。	介護サービス計画書の評価と見直しは、3～6カ月毎にしている。粥・刻み食の方の「おいしいものを食べたい」や家族の「穏やかに生活」の希望に沿って目標を掲げ、調理や外出支援での工夫等を計画書に盛り込んだ。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録や連絡帳があり、全て把握できるようにしている。支援記録はケアプラン作成に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	車椅子の方には介護タクシーを利用したり、苑車にて対応したりしている。通院が難しい方には往診を勧めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	オムツ券やタクシー券を利用して負担を少なくしている。外出の支援が利用者様の重度化と職員不足により回数が減ってしまっているが、水族館が近隣にできたので年間パスポートを購入し、工夫して出掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在、往診に変えた方が多くなってきたが、医師と情報や意見を聞いて、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医の往診は月2回あり、9割の入居者が利用している。かかりつけ医や眼科医を家族同行で受診した結果は、通院記録に記入し、共有している。訪問看護があり、看護師の助言は受診やケアに活かしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回訪問看護師が来所し、健康状態を見てくれる。それ以外でも24時間相談に応じてくれる。場合によっては往診の医師に連絡を取り、指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合はご家族様、医師と今後について話し合いの時間を持つようにしている。入院時に苑での情報提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期についてのお話はさせてもらっている。往診と契約している方には医師と終末期について話をしてもらっている。	重度化及び看取り指針がある。現在、人手不足で職員教育が十分に行えない状況にあり、管理者やベテラン職員が泊まり込みでフォローしている。過去に看取りを経験した時は、入居者と職員全員で見送った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	H27年7月7日に宮城野消防署の方に来所いただき、勉強会を開いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	H27年8月28日に宮城野消防署の方に来所いただき、火事避難訓練・消火訓練実施している。又、H27年11月24日に苑独自で大津波避難訓練を実施している。町内会、仙台市主催の防災訓練にH27年10月11日と11月1日に参加している。	訓練では火災や津波での想定を実施し、徒歩や車両での避難路を検証している。避難通路となるベランダへのスロープ設置等、夜間想定訓練の時の消防署の助言は、今後の訓練に活かして頂きたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	考慮しながら伝わりやすい言葉を選んで声掛けを行っている。拒否がある時は時間を置いたり、職員を変えて対応している。言葉使いが馴れ合いにならないように気をつけている。	基本理念の「家庭的な生活」を大切に、入居者が恥ずかしい思いや、傷つけるような言葉使いをしないように気を付けている。本人の意思を尊重し、職員の押しつけにならないよう、複数から選んで頂く支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	10時のお茶の時や、外食時には、何が良いのか選択していただいている。おやつも毎回ではないが、選択できるようにし本人の意思を聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室やリビング等で、個人で過ごしやすい場所で過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りや爪きりはできない方は職員が支援している。薬局などで化粧水や乳液など自分で選んでいただいている。衣類は希望によって職員同行して購入支援行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	じゃが芋や人参・玉ねぎなどの野菜の皮むきを行っていただいたり、盛り付け、食器拭きなど手伝っていただいている。	配食業者の献立、食材を利用している。食事の支度は、入居者も一緒に行う。立ち続けることが困難でも手伝いたいという方には、テーブルでして貰っている。行事や誕生日の時は、入居者希望の食事をする。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	心臓の病気の方、腎臓病、糖尿病の方は減塩や体重の増減に関しては医師と相談し提供する量を決めている。食事量・水分量を記録して栄養不足や水分不足にならないように支援している。好みに応じた飲み物の提供も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行っている。仕上げが必要な方は職員が介助行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認し時間を見て、トイレ誘導をしている。自らトイレに行く場合はパットの確認をさせていただいている。	排泄パターンを把握し、トイレ誘導をする。夜間は起こさないという入居者には、オムツを使う等、その人に合わせて対応している。トイレ誘導時は、古布や温タオルを使い、清潔が保てるよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に牛乳や豆乳・水を飲んでいただいている。個別にヨーグルト・ヤクルト・オリーブオイルを飲んだり 食べたりしていただいで便秘を無くすように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最低週2回は入浴していただけるよう声をかけさせていただいている。	1年前に改装した浴槽は、足元のストッパーで滑り難く、半身浴もできる。入浴は週2回であるが、希望があれば対応している。昨年購入した布担架で車いすの方の入浴介助が容易になり、職員の負担も軽減した。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝食後、昼食後、おやつ後と部屋で休みたい方には休んでいただいている。夜間眠れなくなる方は早めに起きていただくよう声掛けさせていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表を作成して間違いのないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯物たたみ、食器拭き等の、その方のADLにあわせた役割を持ってもらっている。買い物支援、トランプ、かるた、習字、塗り絵、。歌を歌う等の個々の能力希望に添った支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望時に外出出来ない時があるので、買い物や外出の予定を立てて出かけるようにしている。	日常的におやつ、雑貨等の買い物で、近隣のコンビニ等へ出掛けている。公園に友達と散歩する入居者や庭先の梅を見て外気欲を楽しむ入居者等、本人の行きたい場所で気分転換している。昨年オープンした水族館には、入居者全員で2回出掛けた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員のおこづかいは苑の事務所で預かり、金銭管理をしている。買い物時は支払いができる方には財布を渡して支払ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたい時は事務所の電話を貸して話をしていただいている。手紙や贈り物への御礼のハガキを書いてもらい職員が投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁には季節毎に壁飾りを貼って季節を感じていただいている。テレビ音量の調整、日差しの強い時間はレースのカーテンを使用し直接目に光が入らないように気をつけている。エアコンの温度調整や湿度の管理をし、洋服枚数の調整を声かけている。	リビングには、季節を感じさせる枝垂桜の貼り絵が飾られている。リビングのテレビは、文字情報を表示し、音量は抑え目で、入居者同士の会話を妨げることはない。リビングと2階廊下にソファが配置され、談笑している入居者の姿が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士の関係を配慮した席にしている。ソファの配置は利用者同士が話し易い位置にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から使い慣れた家具や仏壇を持って来てもらっている。家具を持ってきていない無い方は、必要に応じて購入支援を行っている。	備え付けのエアコン、ベッドがある。テーブル、整理ダンス、仏壇など、使い慣れた物を持ち込み、壁には家族写真やカレンダーなどが飾られている。入居者は、職員と一緒に毎朝9時から掃除を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のドアに名札やカッティングシールの色で分かりやすくしている。又、トイレ・便所など個々に呼び方が違うため分かるように目線に入る高さに貼り付けている。ベットの柵は取り付けて安全に自力で起きたり、立ち上がれるように支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475201042		
法人名	有限会社ウエル創建		
事業所名	認知症高齢者グループホームふれあいの家白鳥	ユニット名	西棟
所在地	仙台市宮城野区白鳥1丁目34-12		
自己評価作成日	平成 28年 1月18日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成 28年 3月 18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>震災の被害地域という事もあり、地域と密着したいと思っています。グループホームの利用者様が重度化してきていることもあり、職員の手薄な時間帯にはどうしても地域の力が必要になってきています。ここに高齢者のグループホームがあると言う事を知っていただきたいと思い、地域の草取り、地域の防災訓練、地域の認知症勉強会への参加を行っています。芋煮会では、地域へチラシを配り芋煮会への参加の声掛けをしました。助けたり、助け合う関係を築いていきたいと思っています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>七北田川沿い白鳥団地の中にあり、1階に5部屋、2階に4部屋の東西2ユニットが並んでいる。東日本大震災での津波は、床下浸水にとどまって大事には至らなかったが、その時の経験から火災による地域住民参加による避難訓練の他、地震を想定した訓練も継続的に実施している。地域の清掃活動にリーダー自らが参加する等、地域にホームをもっと知ってもらいたいと前向きに取り組んでいる。地域住民の避難訓練への参加や古布の提供等、地域との関係は良好である。入居者がホームの中だけで過ごさずに、外出の機会を作ることが大切と考えて、ドライブに出掛け気分転換を図っている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 ふれあいの家白鳥)「ユニット名 西棟 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念の二番目の自然と触れ合いながらという点が、人手不足もあり不足していたと思う。	開設時の基本理念を事務所に掲げている。ユニット会議で事業所が目指すサービスのあり方を話し合い、理念の振り返りを行うことを計画しているが、実践されていない。	理念は事業所が目指すサービスのあり方を示し、入居者・家族、地域のニーズに応じて見直すことが大切である。全職員で話し合い、理念の振り返りを行うことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事の夏祭りに参加したり、市民センターの行事に参加している。	コミセン祭りに入居者が制作した花や木が飛び出すポップアップカードを出店した。地域の勉強会や町内会世代間交流への職員参加や早朝の草取りにリーダー等が参加する等、地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年度にラルシテイ町内会の世代間交流会に呼んでいただいた際に食べた、炭火焼秋刀魚が、とても美味しく一部の利用者様だけの参加のため苑で勉強に行かせていただき、芋煮会で炭火焼秋刀魚を全利用者様に提供することができた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度にラルシテイ町内会の世代間交流会に呼んでいただいた際に食べた、炭火焼秋刀魚が、とても美味しく一部の利用者様だけの参加のため苑で勉強に行かせていただき、芋煮会で炭火焼秋刀魚を全利用者様に提供することができた。	地域包括支援センター職員、隣接する3町内会の会長、民生委員等が参加し、2カ月毎に開催している。ホームでの行事やオレンジカフェの開催等の話し合いが行われ、運営や地域貢献に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	仙台市の研修会に参加するようになっているが、人手不足のため回数が少なかった。	保護課職員と入居者の状況や生活で困っていること等を定期的に伝えている。職員不足の状況が続き、介護度が高くなった入居者の財産管理サポートを「まもり〜ぶ」に依頼すること等を相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	H27年8月に勉強会を開いている。	高齢者虐待防止のため、ユニット会議でミニ勉強会を実施している。勉強会は、練習問題に回答する形式で行われ、身体拘束にあたる行為や弊害などを学んでいる。「今まで、しないでと言っていたことが、身体拘束になるんだね」等の職員同士の話し合いがあった。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	H27年8月7日に勉強会を開いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	H28年3月に行う予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に丁寧に説明しており、ご理解頂けたか確認しながら行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時や電話にて意見を聞かせて頂いている。また計画作成者、リーダーが、利用者様とご家族様から意見や要望を聞かせていただいている。	本人の希望で外出するときは、家族に了解を得て支援している。家族等の意見は、面会時に積極的に聞くように心掛けている。昨年は、仙台うみの杜水族館に行きたいという入居者の希望があり、全員で出掛けた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間から出た意見を、リーダー会議や、定期訪問時に会長、社長に報告行っている。	ユニット会議で職員の意見を聞く。人手不足で座位が保ちにくい入居者の入浴介助が大変という意見があり、入浴補助用の布担架を購入した。法人は、人手不足を補うため、職員募集にも努力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務年数や資格に応じて給与水準を上げている。夜勤回数が多くなる場合も手当を上げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	交代勤務のため、全員での勉強会が難しい。系列の施設3施設で、勉強会2回開催して参加率を高めた。毎月ミニ勉強会を開催したり、外部の勉強会に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会や仙台市の研修に参加し、他の施設と交流が持てるようにしている。又交換研修のフォローアップ研修への参加をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査時はもちろん、入居時ご本人の希望や不安を聞いて安心できる関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご自宅で困っていた事、入居に際して不安や要望をお聞きするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援を提案、相談を行い、信頼関係を築くようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の体調に合わせて、炊事、洗濯、掃除、買い物等の生活面での仕事を一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が来所した時や電話をかけた時に報告、相談をし、情報共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	良く行っていたという餃子店と一緒に行き外食支援を行っている。母を思い泣く利用者様を毎年1～2回お墓参り支援を行っている。自宅といた時変わらず、老人会に参加している東棟の方の送迎支援を行っている。	近隣に馴染みの人や場がない。震災避難後に入居した方が多い。仙台市街地に住んだことのある入居者と光のページェントに出掛けたり、家族のない方の墓参りで葛岡公園まで同行する等、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	耳が聞こえないため、話がかからず話の輪に入れない場合など、間に職員が入り説明行って話の輪に入れるよう支援している。気が合わずトラブルになりそうな方は、席替えも行って対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院で退去した方のご家族様からの相談、面談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の会話の中や、職員、他入居者様との対応、テレビを見ての反応などでもご本人様の思いを推察し、把握するように努めている。ご家族様からも情報を得るようにしている。	何気ない会話から、入居者の希望や意向を把握している。入居者から「話だけで終わりにしないで」と言われたこともあるが、近隣のコンビニや秋保のおはぎを買いに出掛ける等、意向に沿った支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴をお聞きしているが、入居後でも会話の中やご家族様からの情報を得られる時がある。記録に残して情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の介護記録でその方の毎日の状況を記録し、把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	聞き取りは、主に計画作成者が行っている。居室職員間では、会議で話し合い、意見を出し合っている。	介護サービス計画書の評価と見直しは、3～6カ月毎にしている。粥・刻み食の方の「おいしいものを食べたい」や家族の「穏やかに生活」の希望に沿って目標を掲げ、調理や外出支援での工夫等を計画書に盛り込んだ。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録や連絡帳があり、全て把握できるようにしている。支援記録はケアプラン作成に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	車椅子の方には介護タクシーを利用したり、苑車にて対応したりしている。通院が難しい方には往診を勧めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	オムツ券やタクシー券を利用して負担を少なくしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在、往診に変えた方が多くなってきたが、医師と情報や意見を聞いて、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医の往診は月2回あり、9割の入居者が利用している。かかりつけ医や眼科医を家族同行で受診した結果は、通院記録に記入し、共有している。訪問看護があり、看護師の助言は受診やケアに活かしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回訪問看護師が来所し、健康状態を見てくれる。それ以外でも24時間相談に応じてくれる。場合によっては往診の医師に連絡を取り、指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合はご家族様、医師と今後について話し合いの時間を持つようにしている。入院時に苑での情報提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期についてのお話はさせてもらっている。往診と契約している方には医師と終末期について話をしてもらっている。	重度化及び看取り指針がある。現在、人手不足で職員教育が十分に行えない状況にあり、管理者やベテラン職員が泊まり込みでフォローしている。過去に看取りを経験した時は、入居者と職員全員で見送った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	H27年7月7日に宮城野消防署の方に来所いただき、勉強会を開いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	H27年8月28日に宮城野消防署の方に来所いただき、火事避難訓練・消火訓練実施している。又、H27年11月24日に苑独自で大津波避難訓練を実施している。町内会、仙台市主催の防災訓練にH27年10月11日と11月1日に参加している。	訓練では火災や津波での想定を実施し、徒歩や車両での避難路を検証している。避難通路となるベランダへのスロープ設置等、夜間想定訓練の時の消防署の助言は、今後の訓練に活かして頂きたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	考慮しながら伝わりやすい言葉を選んで声掛けを行っている。拒否がある時は時間を置いたり、職員を変えて対応している。	基本理念の「家庭的な生活」を大切に、入居者が恥ずかしい思いや、傷つけるような言葉使いをしないように気を付けている。本人の意思を尊重し、職員の押しつけにならないよう、複数から選んで頂く支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	10時のお茶の時や、外食時には、何が良いのか選択していただいている。おやつも毎回ではないが、選択できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室やリビング等で、個人で過ごしやすい場所で過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りや爪きりはできない方は職員が支援している。薬局などで化粧水や乳液など自分で選んでいただいている。衣類は希望によって職員同行して購入支援行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	じゃが芋や人参・玉ねぎなどの野菜の皮むきを行っていただいたり、盛り付け、食器拭きなど手伝っていただいている。	配食業者の献立、食材を利用している。食事の支度は、入居者も一緒に行く。立ち続けることが困難でも手伝いたいという方には、テーブルでして貰っている。行事や誕生日の時は、入居者希望の食事をする。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	心臓の病気の方、腎臓病、糖尿病の方は減塩や体重の増減に関しては医師と相談し提供する量を決めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。仕上げが必要な方は職員が介助行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使い、トイレ誘導をしている。自らトイレに行く場合はパットの確認をさせていた	排泄パターンを把握し、トイレ誘導をする。夜間は起こさないという入居者には、オムツを使う等、その人に合わせて対応している。トイレ誘導時は、古布や温タオルを使い、清潔が保てるよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に牛乳や豆乳・水を飲んでいただいている。個別にヨーグルト・ヤクルト・オリーブオイルを飲んだり 食べたりしていただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最低週2回は入浴していただけるよう声をかけさせていただいている。	1年前に改装した浴槽は、足元のストッパーで滑り難く、半身浴もできる。入浴は週2回であるが、希望があれば対応している。昨年購入した布担架で車いすの方の入浴介助が容易になり、職員の負担も軽減した。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝食後、昼食後、おやつ後と部屋で休みたい方には休んでいただいている。夜間眠れなくなる方は早めに起きていただくよう声掛けさせていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表を作成して間違いのないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯物たたみ、食器拭き等の、その方のADLにあわせた役割をしてもらっている。買い物に行くことで気分転換になるので苑の買い物や本人の買い物をしてもらっている。花の好きな方の草取り、花植え、フラワーアレンジメントなどできるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望時に外出出来ない時があるので、買い物や外出の予定を立てて出かけるようにしている。	日常的におやつ、雑貨等の買い物で、近隣のコンビニ等へ出掛けている。公園に友達と散歩する入居者や庭先の梅を見て外気欲を楽しむ入居者等、本人の行きたい場所で気分転換している。昨年オープンした水族館には、入居者全員で2回出掛けた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員のおこづかいは苑の事務所で預かり、金銭管理をしている。買い物時は支払いができる方には財布を渡して支払ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたい時は事務所の電話を貸して話をしていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁には季節毎に壁飾りを貼って季節を感じていただいている。	リビングには、季節を感じさせる枝垂桜の貼り絵が飾られている。リビングのテレビは、文字情報を表示し、音量は抑え目で、入居者同士の会話を妨げることはない。リビングと2階廊下にソファが配置され、談笑している入居者の姿が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士の関係を配慮した席にしている。ソファの配置は利用者同士が話し易い位置にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から使い慣れた家具や仏壇を持って来てもらっている。家具を持ってきていない無い方は、必要に応じて購入支援を行っている。	備え付けのエアコン、ベッドがある。テーブル、整理ダンス、仏壇など、使い慣れた物を持ち込み、壁には家族写真やカレンダーなどが飾られている。入居者は、職員と一緒に毎朝9時から掃除を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のドアに名札やカッティングシールの色で分かり易くしている。又、トイレ・便所など個々に呼び方が違うため分かるようにしている。		